

---

# 三角関数の加法定理

**2014年11月22日（土）**

**JABEE-日工教 共催**

反転授業に関するワークショップ用サンプル

# このスライド集について

---

- このスライド集は、**2014年11月22日（土）**に**JABEE**と日工教が共催する「反転授業に関するワークショップ」において、反転授業の実例をご紹介するための模擬講義用資料です。
- 工学系の多くの教員の皆様に共通の題材として、「三角関数の加法定理の導出」を取り上げていますが、反転授業の適用範囲は数学等に限られるものではありません。

# よく使う三角関数公式

$$\cos(\alpha + \beta) = \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta$$

$$\cos(\alpha - \beta) = \cos \alpha \cos \beta + \sin \alpha \sin \beta$$

$$\sin(\alpha + \beta) = \sin \alpha \cos \beta + \sin \beta \cos \alpha$$

$$\sin(\alpha - \beta) = \sin \alpha \cos \beta - \sin \beta \cos \alpha$$

加法定理

$$\sin \alpha \cos \beta = \frac{\sin(\alpha + \beta) + \sin(\alpha - \beta)}{2}$$

$$\sin^2 \gamma = \frac{1 - \cos 2\gamma}{2}$$

$$\cos^2 \gamma = \frac{1 + \cos 2\gamma}{2}$$

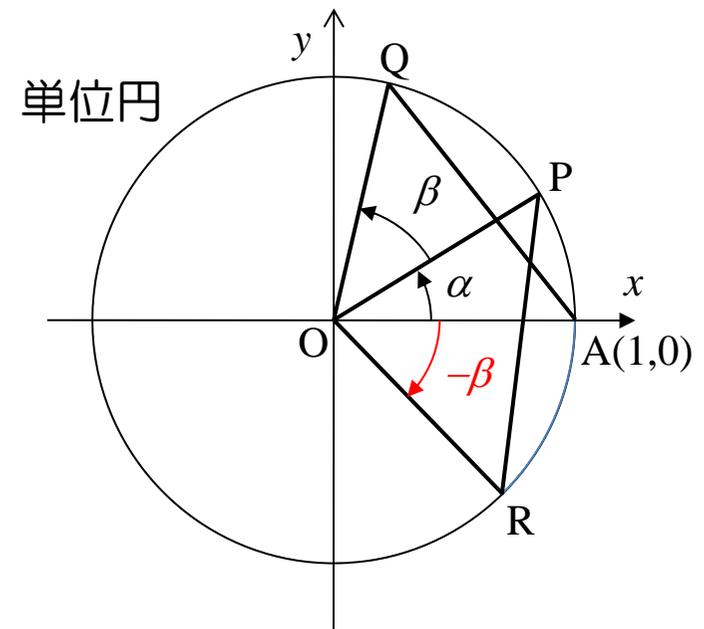
# コサインの加法定理の導出

- 二つの角 $\alpha$ と $\beta$ の和 $\alpha+\beta$ に対するコサインの加法定理を，原点と単位円上の2つの点からなる二等辺三角形 $\triangle \mathbf{OAQ}$ と $\triangle \mathbf{OPR}$ が合同であることを使って導出しよう。

導出するコサインの加法定理の式

$$\cos(\alpha + \beta) = \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta$$

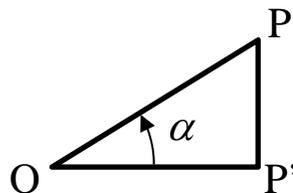
$$\cos(\alpha - \beta) = \cos \alpha \cos \beta + \sin \alpha \sin \beta$$



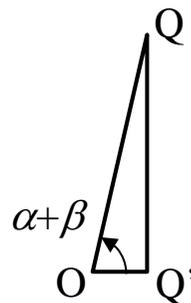
# 三角形の頂点の座標を求めよう

図中P, Q, Rの各点からx軸に垂線をおろしてできる3つの直角三角形を考え、各点の座標を求めよう

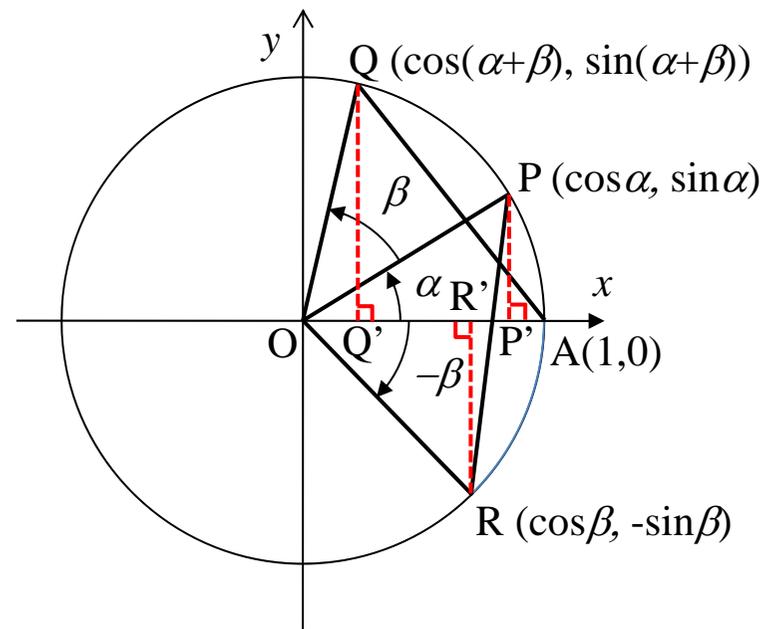
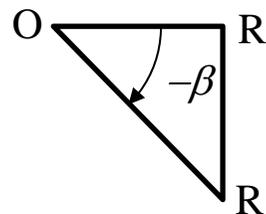
$$P : (\cos \alpha, \sin \alpha)$$



$$Q : (\cos(\alpha + \beta), \sin(\alpha + \beta))$$



$$R : (\cos(-\beta), \sin(-\beta)) \\ = (\cos \beta, -\sin \beta)$$



## 三角形の合同を利用しよう

- $\triangle \mathbf{OAQ}$ と $\triangle \mathbf{OPR}$ はどちらも長さの等しい二辺の長さが1で頂角 $\alpha + \beta$ の二等辺三角形であるので、両者の底辺の長さは等しく $\overline{PR} = \overline{QA}$  ,  
よって $\overline{PR}^2 = \overline{QA}^2$

- 先に求めたP,Q,R各点の座標より次式を得る

$$\begin{aligned}\overline{PR}^2 &= (\cos \alpha - \cos \beta)^2 + (\sin \alpha + \sin \beta)^2 \\ &= 2 - 2 \cos \alpha \cos \beta + 2 \sin \alpha \sin \beta\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\overline{QA}^2 &= (1 - \cos(\alpha + \beta))^2 + \sin^2(\alpha + \beta) \\ &= 2 - 2 \cos(\alpha + \beta)\end{aligned}$$

# コサインの加法定理の導出が完了

---

これまでの結果より・・・

$$\overline{PR}^2 = 2 - 2 \cos \alpha \cos \beta + 2 \sin \alpha \sin \beta$$

$$\overline{QA}^2 = 2 - 2 \cos(\alpha + \beta)$$

$$\overline{PR}^2 = \overline{QA}^2 \rightarrow 2 - 2 \cos \alpha \cos \beta + 2 \sin \alpha \sin \beta = 2 - 2 \cos(\alpha + \beta)$$

$$\therefore \cos(\alpha + \beta) = \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta$$

上の結果を用いてもう一つの関係式も導出される

$$\begin{aligned} \cos(\alpha - \beta) &= \cos(\alpha + (-\beta)) = \cos \alpha \cos(-\beta) - \sin \alpha \sin(-\beta) \\ &= \cos \alpha \cos \beta + \sin \alpha \sin \beta \end{aligned}$$

$$\therefore \cos(-\beta) = \cos \beta, \sin(-\beta) = -\sin \beta$$

# 演習：サインの加法定理を導出しよう

導出するサインの加法定理の式

$$\sin(\alpha + \beta) = \sin \alpha \cos \beta + \sin \beta \cos \alpha$$

$$\sin(\alpha - \beta) = \sin \alpha \cos \beta - \sin \beta \cos \alpha$$

全て説明してしまうのではなく、部分的に課題として提供すると、意欲の高い学生の理解が進みます

導出したコサインの加法定理と次の関係式を用いて、上のサインの加法定理を導出しよう

$$\sin \theta = \cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right)$$